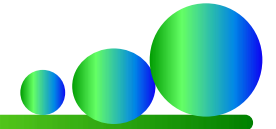


砂つぶの殻をもつ スナカラムシ



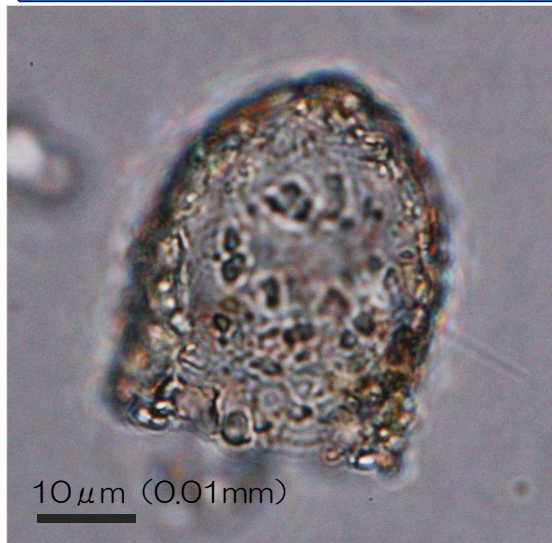
スナカラムシ (*Tintinnopsis* スナカラムシ属) は、繊毛虫のなかまの動物プランクトンです。壺のような形の殻 (カラ) には、小さい砂粒がたくさんついています。

電子顕微鏡で観察すると、様々な形の砂粒がびっしりとついている殻の様子が確認できます。

壺型の殻の中に細胞が収まっています。光学顕微鏡での観察では、開口部 (壺の口の部分) から、繊毛で囲まれた口部を出しているのが見られることもあります。

スナカラムシは、霞ヶ浦でもよくみられる動物プランクトンの一つで、2022年8月と9月には、西浦の湖心で、優占種 (動物プランクトンの中で個体数が最も多い種) となっていました。

↓ どの個体でも砂粒が殻の表面にびっしりとついています。 ↓



スナカラムシ (光学顕微鏡写真)
(試料採取 西浦・土浦港 2022年10月26日)



スナカラムシ (走査型電子顕微鏡写真)
(試料採取 西浦・湖心 2022年9月15日)



スナカラムシ (走査型電子顕微鏡写真)
(試料採取 北浦・釜谷沖 2022年10月15日)

※写真はすべて殻のみです。